

# 学校給食会たより

第170号

平成25年3月25日



姉妹学級での「おいもほり」

(写真提供: 諏訪市立四賀小学校)

## 目次

- 公益財団法人に移行 ..... 2
- 公益財団法人長野県学校給食会役員名簿 ..... 2
- 給食雑感 ..... 3
- 平成24年度 学校給食に地場産物を活用した  
献立コンクール 講評 ..... 4
- 平成24年度 学校給食に地場産物を活用した献立コンクール  
自由献立部門最優秀賞・優秀賞 ..... 5
- 平成24年度 学校給食に地場産物を活用した献立コンクール  
課題献立部門最優秀賞・優秀賞 ..... 6
- 平成24年度 学校給食に地場産物を活用した献立コンクール  
各部門優良賞 ..... 7
- 楽しい給食 おいしい給食 ..... 8

編集・発行 公益財団法人 長野県学校給食会

〒381-0103 長野市若穂川田3800-5 TEL 026-282-6080 FAX 026-282-6535 E-mail info@nagk.or.jp

<http://www.nagk.or.jp/>



公益財団法人長野県学校給食会

理事長 小林 昭人

# 公益財団法人に移行

7年前の平成18年に公益法人制度改革三法が公布されて以来、本会のこれから進むべき道はと内部検討委員会を設け、顧問会計士をアドバイザーに「一般財団」と「公益財団」のメリット、デメリットについて、検討協議を重ねてまいりました。その間逐次理事会・評議員会へ報告し共に検討を行った結果、昨年3月の理事会・評議員会で「公益財団」へと方針決定いたしました。以後、認定申請の事務手続き書類の整備を進め、昨年10月申請、12月審議会の答申を経て、知事の認可をいただき、本年1月4日法人登記を行い、新たな「公益財団法人長野県学校給食会」となりました。

検討の中で、法人の方向性と共に事業を推進していく上での課題についても議論をいたしました。そこで今までの事業年度4月から3月のサイクルを、1月から12月の暦年に変更することにいたしました。これは決算認定の時期と、理事・評議員の任期、調理施設

との物資精算等々を考慮した時、12月で締め3月に認定のサイクルが都合がよいのではとの結論に達したことからであります。従来から、財団法人として公益の意識を持って事業展開をしてまいりましたが、公益財団法人に移行した上は、栄養教諭、学校栄養職員の皆さんを始め学校給食関係者と連携を更に密にして、より一層公益事業に力を注いでまいります。そして学校給食における食育の推進を支援すると共に、安全安心な食材を安定的に提供し、児童生徒の心身の健全な発達に寄与できますよう努力してまいります。

特に、地産地消が叫ばれるなか、地場産物の活用には関係の皆様と協力して、新たな製品開発や活用方法の多様化等を共に推進してまいります。今後とも、公益財団法人長野県学校給食会にご支援ご協力をお願い申し上げます。公益法人移行のご挨拶といたします。

## 公益財団法人長野県学校給食会役員名簿

	氏名	選出区分
理事	堀内 征治	市町村教育委員会連絡協議会
	土屋 盛夫	
	石塚 弘登	県小学校長会
	飯田 茂	県中学校長会
	竹内 佳代子	栄養教諭・学校栄養職員部会
	山崎 弘道	県PTA連合会
	柳澤 幸一	学識経験
	小林 昭人	学識経験(理事長)
	清水 有二	学識経験(専務理事)
	下條 年平	学識経験(常務理事)
監事	氏名	選出区分
	坂口 健之	学識経験
	倉石 和明	県PTA連合会

	氏名	選出区分
評議員	近藤 守	市町村教育委員会連絡協議会
	小澤 嘉和	
	北田 愛治	県小学校長会
	清水 彰	県中学校長会
	外谷 真之	県PTA連合会
	榛葉 教子	栄養教諭・学校栄養職員部会
	佐藤 正行	学識経験
	田中 みつる	学識経験
	小市 邦夫	学識経験
	小嶋 隆徳	学識経験
	山岸 深志	学識経験

給食雑感

公益財団法人発足に寄せて



本会評議員

元県保健厚生課長

佐藤 正行

公益財団法人  
発足に寄せて

今年の1月から本会が公益財団法人として新たなスタートにあたり、評議員を務めることとなりました。どうぞ宜しくお願いいたします。

本会は、社会的に公益性と高い信頼度が認められ、今後は公益財団法人として、より一層発展していくことが期待されますので、評議員としての重責を深く感じております。

私は、昨年3月をもって県職員を定年退職し、現在は米や野菜作りに汗を流していますが、体力が落ちるにつれ食と健康について気にかけています。

学校給食との関係は、県教育委員会事務局の保健厚生課に勤務し、学校給食には栄養摂取基準や厳しい衛生管理があり、様々な制約の中で実施されていることを知りました。また、本会の研究事業である地場産物活用の加工食品開発や流通に関する研究会に参加し、関係の皆様への熱心な思いと取組に感動したところです。

そのような経緯もあって、今回の評議員につながったのと思っております。

当時、全国的に事故米・汚染米流通問題があり、食材

の安全管理・流通管理が改めて重要と認識したところ  
です。

学校給食は、子供たちが食に関心を持ち、自ら考え健康を  
追及していく力を養うことが大切と考えます。人間は、食  
べ物でしかエネルギーを得られません。身体づくりもでき  
ません。健康を維持増進していくには食の重要性を知つて  
実践することが大切です。

学校給食の目的は、子供たちの健康保持増進、望ましい食  
習慣の習得、明るい社交性や協同の精神を養うなど多様  
です。また、地産地消や食育の取組も重要な位置づけ  
です。

こうした中、食材供給を安心・安全・確実に行い、地場  
産物の活用開発、調理実習などの本会の活動が懸け橋と  
なつて、学校給食の充実と食育に更に貢献し、子供たち  
が健康ですくすくと育っていくことを願います。



本会理事

長野市教育長

堀内 征治

子供たちへの懸け橋

長野県学校給食会の公益財団法人への移行を心から  
お祝い申し上げますとともに、発足に向けての、長期間にわ  
たる関係の皆様のご尽力に、あらためて敬意を表する次

第です。あわせて、このたびの公益財団化の意義を常に  
確認し続けることが、本会の重要なミッションであると痛  
感しております。

学校給食は、「食に関する正しい理解と適切な判断力  
を養う上で重要な役割を果たすもの」と学校給食法に  
位置づけられ、その目的に「学校における食育の推進を  
図ること」が明記されました。

私も長野市でも、学校給食において、適切な栄養の  
摂取による健康の保持増進を図るとともに、食事につい  
ての正しい理解や望ましい食習慣を養い、各地域の優れ  
た伝統的な食文化や、食料の生産・流通及び消費の理解  
を深めることなどを目標にしております。また、この目標  
に向け、各学校では「食育指導の全体計画」を策定し、各  
教科や総合的な学習の時間、学校行事や学級活動など  
を通して、食育の推進に取り組んでおり、児童生徒への  
「食に関する指導」を計画的に行っております。

このような活動は、長野県内の各市町村において展開  
されておられることと思いますが、その背景には、主食に  
加え、各種食材が適切に提供されることが保障される必  
要があります。そして、このような視点からは、社会情勢  
の厳しい変化にも対応可能な、安定的な供給を可能にす  
る「公益性」が大切であることが見えて参ります。

経済状況が必ずしも好調とはいえない現在、安定した  
提供を基本方針とする本会が公益法人に移行したこと  
は、まことに時宜を得たものであり、今まで以上の貢献が  
できるものと大いに期待しております。食育の原点であ  
る家庭との連携も視野に入れ、本会が食育推進の牽引  
役として一層発展されることを願っております。

## 講評

# 平成24年度 学校給食に地場産物を活用した 献立コンクール



審査委員長 廣田 直子 松本大学大学院 健康科学研究科 教授

文部科学省委託事業による「学校給食に地場産物を活用した献立コンクール」は、本年度が2回目となります。昨年度は初の試みということで、企画や準備を進めてくださった皆様も私たち審査員も手探りの状況でした。応募された皆様はなおさらだったでしょう。しかし、最終審査で最優秀賞等を受賞された皆様のうれしそうな様子を拝見し、このコンクールが、日頃の努力を評価してもらえる機会となり、さらに、それが長野県の学校給食における地場産物の活用とその教材化につながってほしいと願ったことを思い出します。

幸い、関係者のご尽力により、本年度も実施することができました。本年度は、自由献立と課題献立(長野県栄養教諭・学校栄養職員部会と長野県学校給食会が開発した加工食品を使用した食育として教材化したもの)の2部門を設定しました。大規模給食施設からの応募に配慮したという側面もあります。

自由献立部門6チーム、課題献立部門4チームが

第2次審査に進まれました。この間、地場産物活用委員会の委員の先生方にはたいへんお世話になりました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

今年度は第2次審査まで進まれたチームの年齢幅も広がり、最初に与えられた短いアピールタイムには、すばらしいプレゼンテーションが行われました。日頃、教室で子どもたちに接している様子が推察され、うれしく拝聴しました。調理作業中はお互いに確認作業をするさわやかな声が飛び交い、調理作業でのチームワークの良さが伝わってきました。

昨年と同じように、参加された皆様にとっては、2次審査への出席そのものがよい刺激になっていたようです。入賞は誇らしいことですが、入賞の有無に関わらず、コンクールに応募しようとするご自身が、日頃の献立作成や調理業務を振り返るチャンスになります。今後もコンクールが継続され、応募して下さる方が増えて、長野県の学校給食の一層の発展につながることを期待したいと思います。



審査員による慎重な審査



第2次審査における調理状況

受賞校紹介

**最優秀賞**

小諸市立 美南ガ丘小学校

自由献立  
部門

三穀米ごはん  
牛乳  
にじますのおろし煮  
塩イカの酢の物  
鉄火汁  
ブルーベリー



感謝の受賞

金井 良江

「美南方丘の給食、やったね。」「おめでとう。」受賞した次の日に学校で報告するとたくさんの子どもたちや先生が声をかけてくれ一緒に喜んでくれました。地元新聞でも取り上げていただき、保護者や生産者、地域の方にも温かいお言葉をいただきました。小諸市では20年以上前から学校給食に地元の無・減農薬野菜を取り入れていきます。子どもたちに少しでも農薬を減らした地元農産物を使っておいしい給食を提供したいという願いに賛同して下さる生産者の方が安全な農産物を納入してくださっています。地元の直売所、加工所、商店さんも地場産物を給食に積極的に納入してください。

生産者、業者、調理員、栄養士、学校職員、保護者、行政、地域の方々が、立場は違えど皆同じ願いを持って協力し合い携わって長年かけて作り上げてきたこの給食。今回は、関わる全ての人に感謝するための受賞であったと感じています。子どもたちにもそれを伝えるための良い機会となりました。

また出場するにあたり、調理員さんとりハールをして、改めて作業工程や衛生管理を何度も検討したことも勉強になりました。他施設の献立や地場産物のPRも大変素晴らしい参考にしたものばかりでした。今回コンクールに出場する機会を与えていただいたことを本当に感謝しています。

《自由献立部門》

優秀賞

山形村立山形小学校



ごぼうっこカレー／牛乳  
長芋のホッコホコ揚げ  
ブロッコリーシュリンプサラダ  
山形りんごゼリー

優秀賞

飯山市立戸狩小学校



紫米青大豆ごはん／牛乳  
アスパラのみゆきポークまきアップルソースかけ  
パプリカ3兄弟のキンピラ／たけの子汁  
スノーキャロットゼリー

# 最優秀賞

茅野市立 永明中学校

課題献立  
部門

ごはん

牛乳

おからとしめじの信州バーグ  
さっぱりおろしソース

ブロッコリーサラダ

さつまいもと凍り豆腐の  
味噌汁

りんご寒天



献立コンクールを振り返って

北堀 恵

今回、献立コンクールの課題献立部門に出場し、最優秀賞をいただくことができました。

思いがけず届いた一次審査通過の知らせ。それからは「自信が持てるまで何度もやろう」と、調理主任の東浦さんと一緒に学校の調理室で試作を重ねました。職員室の先生方に味見もしていたが、毎日へとへとになりながらも当日を迎えました。

二次審査の結果を聞いた時は信じられませんでした。これまでの練習が報われたようで二人で手を取り合って喜びました。それと同時に、給食をより良いものにしていかなければと、身が引き締まる思いでした。

地場産物に関しては、茅野市は全校で市内産の野菜類が手に入り、そして寒天をはじめとする伝統的な特産物もあります。この恵まれた環境を生かし、今後も給食に地場産物を取り入れ、子ども達に地域のことや作っている方の思いを伝えていきたいと思えます。

また、開発加工品を使うのは今回が初めてでしたが、限られた時間でも手の込んだ献立にチャレンジでき、また安心して使えるため、献立作りの視野が広がったように思います。

様々な業務を抱える栄養士ですが、まずは調理員さんとのおいしい給食作りが土台と言われます。私はこのコンクールに出場したことで、自身の献立作りへの姿勢を見直す機会となりました。子ども達に伝えたい思いを大切にしながら、おいしい給食を提供できるよう努めていきたいです。

## 《課題献立部門》

ごはん

牛乳

カップ焼きハンバーグ

シャキシャキポテトのサラダ

卵とコーンスープ



優秀賞

飯田市立丸山共同調理場

《自由献立部門》



みかえりの里ごはん／牛乳  
 信州サーモンコンパラソースかけ  
 まこもとエリンギのキンピラ／いなか汁  
 ロザリオピアンコ

優良賞

青木村立青木小学校



発芽玄米ごはん／牛乳  
 信州サーモンの包み揚げ／花野菜サラダ  
 ふわふわかきたま汁  
 ヨーグルトゼリー桑の実ソース

優良賞

松本市立会田中学校



筑北五穀米ごはん／牛乳／ぼてっと茶巾  
 かんぴょうのごま和え／豆乳元気UP汁  
 キャロットゼリー

優良賞

筑北村立坂北小学校

《課題献立部門》



セサミトースト／牛乳  
 信州ロールキャベツのトマト煮  
 金時豆のサラダ／クレオパトラのスープ

優良賞

伊那市立伊那中学校



ごはん／牛乳／キムタクポテト／ナムル  
 ワカメスープ／りんご

優良賞

木曾町立福島中学校

# 楽しい給食 おいしい給食

## 給食委員長になって

須坂市立日滝小学校 6年 宇治英律

ぼくは、「学校の残食を減らすことができ  
る委員会にしよう」という目標を立てまし  
た。この目標を達成するために、委員長とし  
て計画を立てました。

計画の一つ目は、残食調べです。これは、各  
クラスの残食の量を、「◎・○・△」で見て、◎  
は残食がない。△は残食が多いとしました。  
結果を全校に発表し、上位三位までのクラ  
スに賞状を渡しました。残食調べの期間は  
残食が減りましたが、残食調べが終わると、  
また、残食が増え始めてしまいました。

他には、「先生交代給食」や「なかよし給食」もやりました。「先生交代給  
食」は、担任の先生だけが代わって、他の学年のクラスの子どもたちと食べる  
というものです。子どもたちは、いつもと違う先生と給食を食べるので、いつも  
はあまりかかわりのない先生といろいろな話をしたり、クイズを出し合ったり  
して、楽しく給食を食べることが



できました。「なかよし給食」は、ク  
ラスの半分の人が、姉妹学級（1年  
と6年、2年と5年、3年と4年）  
の人と代わって給食を食べます。ク  
ラスによって楽しく食べたり、静か  
に食べたりしましたが、クイズを出  
し合ったりすれば、もっと楽しく食  
べることができたと思いました。  
全校の残食を減らすことはあま  
りできなかったけれど、全校が、楽  
しく給食を食べることができたと思  
います。給食委員長になって、食  
べ物の大切さが、あらためてわか  
りました。



## 目指せ残さい0!!

上田市立塩田中学校 3年 古平律香

給食委員会では、「マナーを守り楽しい給食に  
しよう。」という活動方針で活動してきました。  
給食当番の身支度を徹底することや、残さず  
食べるなどのマナーを徹底することで楽しい給  
食になると考えました。

身支度の徹底は、毎日コンテナ室の前に  
立つてチェックを行いました。最初はなかなか注  
意できませんでしたが、だんだんできるようにな  
りました。また身支度は徹底できていないので、  
次の役員の人にはがんばってもらいたいです。

特別活動では、カルシウム摂取運動、残さい量調べ、給食センター訪問時の様  
子を伝えるポスター制作、給食週間など、いろいろな活動を行いました。特に残  
さい量調べでは、残さいを調べて、お昼の放送で各クラスの残さい量を発表する  
ことで、全校のみんなの意識を高めることができたと思います。さらに放送での  
呼びかけを続け、一週間で多くのクラスが残さい量0kgを達成しました。一週間  
残さい量0kgだったクラスは七クラスあり、賞状を渡して表彰しました。どのク  
ラスでも残さいをなくすために協  
力している姿を見ることができて  
よかったです。



様々な活動を行う中で、課題  
も見つかりました。それは、全校の  
みなさんに、活動している期間だ  
けでなく、毎日意識してもらおうと  
いう事です。活動期間以外で全校  
の人の意識を高めるのは、なかな  
か難しい事かもしれませんが、委  
員一人一人の呼びかけが大事に  
なつてくると思います。  
一人一人の教職で活動がよりよ  
いものになると思います。

